

確認事項 (H16年度～)

1. 選手変更について

- ・メンバー変更は連続する大会日程の時は、変更不可能！ただし、1日でも間があいた場合は変更可能。大会期間が連続で開催されない場合、選手変更を許可する。

ex. 大会が〇月3日(土)と〇月5日(月)の場合。3日・5日の両日変更可能

2. 鳴りものを使用しての応援

高校での使用

- ・高校会場の体育館での鳴り物の応援は従来から使用しているペットボトル・メガホン・ばち・しゃもじなどは使用可！但し、手すりなどを体育館の器物をたたかないように各チームは配慮しておこなう。また、大会本部が不適切と判断した場合、使用を禁止してもらう。

公共施設での使用

- ・ブラスバンド等、上記以外の鳴り物を使った応援の場合、公共の施設のみで使用可とする。ただし、公共の施設管理者からの要望がある場合、また、大会本部が使用を見送った方がよいと判断した場合、使用を禁止する。
- ・応援席・場所については競技運営上支障にならない場所で行い、大会本部から指示があった場合、それに従ってもらう。その他、席・場所については応援者同士の話し合いで行いトラブルについては各校で解決すること。
- ・応援は主審のサーブの吹笛前から主審のジャッジが行われるまでは行わない。

3. 参加資格

- ・「同一学年での出場は1回限りとする」の解釈について(原級留置や年度途中で退学して転校等する場合に限られる。) H16年度から「出場＝コートに立つ」と考える。つまり、ベンチに入っているも実際コートに立たなければ出場したことにはならない。と解釈される。(従来は「入部＝出場」となっており、入部した時点で出場したことになっていた。) よって、競技部としては

①県内の各支部の地区大会からの記録用紙(1F)を3年間保管する。

(地区大会は地区の支部責任者が保管・県大会は競技委員長が保管)

②県外からの転校してきた部員の場合。選手の自己申告とともに、現監督が前の学校に必ず確認を取り、競技委員長へ報告する。競技委員長と総務委員長は独自に確認を取り、もし違反がわかった場合は試合を無効とする。

③外国人留学生についてはパスポートで年齢を確認する。

4. 引率

当該校の職員(校長も可能になった)

*引率問題があるので詳細は校長に相談し、了承を得ること。

要項の文言では

引率責任者は、校長の認める当該校の職員とする。また、校長から引率を委嘱された「部活動指導員」(学校教育法施行規則第78条の2に示された者)も可とする。ただし、「部活動指導員」に引率を委嘱する校長は、岡山県高体連会長に事前に届け出ること。引率者は、全ての行動に対して責任を負うものとする。監督が非常勤講師の場合、別途引率責任者が必要である。

5. 監督・コーチ

- ・校長が認める指導者＝外部指導者も可能。

要項の文言では

監督・コーチは校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険(スポーツ安全保険等)に必ず加入することを条件とする。(外部指導者申請書を岡山県高体連バレーボール部委員長に提出すること)

6. ベスト8の次大会組合せ時の取り扱い。

- ・選手権大会は県総体ベスト4を固定し、セカンド4のチームは内シードに抽選をして配置する。

(県総体で1位と対戦したかどうかは考慮しない)

- ・春季大会は新人大会の順位に従って、4位の内シードに5位、3位の内シードに6位を配置、残りのセカンド4のチームは1位、2位の内シードに抽選して配置する。(新人大会で1位と対戦したかどうかは考慮しない)

県総体は春季大会ベスト4を固定し、セカンド4のチームは内シードに抽選をして配置する。

(春季大会で1位と対戦したかどうかは考慮しない)

- ・県総体予選の抽選は地区総体の結果をもとに各地区1位を抽選時にシードしたが、H16年度よりフリー抽選とする。(シード校以外の抽選の件)

7. 大会要項に大会使用球を明記する。

8. 新人大会の最終日（順位決定戦）は試合のないチームから補助員を出し合う。
9. 開始式後は第1試合のチーム以外は早急にフロア外に出ること。
10. テレビ放映がある大会日のプロトコールは旧Vリーグ方式で行った。（選手権大会は公式練習5分で）また、試合前のコートを使った練習は10分間とした。
11. 各支部で行われる県大会会場の公共の体育館は、その支部にある公共施設を使用する。
12. 申込みについて
 - ・地区大会申込の時に6名に満たないチームの申し込みは受け付けない。（但し、合同チームの場合は要項に従う。）
 - ・春季大会の新1年生の申し込みの取り扱い。入学式以前に大会がある場合は、学校長の許可があれば出場可能である。
13. H21年度から大会のエントリーが12名→14名（最大14名の競技者で構成してよいがリベロをのぞく正規競技者は最大12名）。リベロプレーヤーゼッケンの使用禁止とする。
14. H23年度よりJVAMRS（個人登録システム）よりプリントアウトしたチーム加入選手一覧は春季支部予選から必ず提出をしていただく。
15. 申込用紙に引率責任者欄を設けた。
16. 県総体・選手権大会において、準決勝・決勝の男女の順を年度で変更した。H25年度は男子を先、女子を後とした。
17. 競技開始時間の定義をホイッスルの時間とし、3セットマッチは原則11分前をプロトコールとする。
18. 新人大会競技方法を変更した。支部大会を実施しシード順を決定。支部大会に参加したチームをすべて県大会出場チームとした。また、最終日1位リーグ4位と2位リーグ1位を対戦させ最終順位を決定した。
19. 構成メンバー表提出について変更した。
20. 開会式・開始式の時間を変更して、第1試合の該当チームに配慮した。
21. 構成メンバー用紙の様式を変更した。リベロの記載のないものを利用し、試合前監督に記入してもらうこととした。
22. 新人大会競技方法を変更した。順位決定のためリーグ戦を行っていたがリーグ戦を廃止し、順位決定トーナメント戦とした。
23. 新人大会順位決定トーナメントの対戦相手は1日目終了後抽選を行った。セカンド4は最終代表を決定するだけで7～8位は順位付けしない。2020年度からは、会場の関係から各ブロックの1位・2位の入る位置を事前に抽選した。
24. 新人大会をフリー参加の大会から支部予選を通過した支部代表形式の大会とした。
25. 合同チームの合計人数が6名を超える場合は、出場を優先するが、構成チーム数が最小となるようにする。
例 5名+5名+5名・・・可 3名+3名+3名+3名・・・不可 → 3名+3名と3名+3名・・・可

確認事項

- 昨年度に引き続き、県総体・選手権大会は感染症対策や観戦の許可の関係で、最終日を決勝のみとなるように組んだ。選手の体調面、運営面にもメリットがあると考え、今後も同様に運営していく。
- 春季大会では、3位決定戦で敗れたチームと、ベスト8で敗れたチームのうち敗者復活戦（トーナメント）で勝ち上がったチームとで、代表決定戦を行う。

反省事項

- 1日の会場数が増えたため、1会場の役員の数が少なくなり、負担が大きかった。引き続き、引率の先生には全日の協力を要請していく。

協議事項

1. 支部予選を行う大会においての各支部出場校割り当て

基準となるもの

前年度新人大会参加チームを参考データとして算出基準とする。その基準は過去5年間のチームから平均化したものとする。参加チーム比率をカッコ内に示す（支部参加校数／全参加校数）

参加チーム数 男子：備前17（0.41） 備中17（0.41） 美作7（0.17）
 （1.66を四捨五入） （1.74を四捨五入）
 女子：備前23（0.45） 備中20（0.39） 美作8（0.16）

上記のデータをもとに春季大会・新人大会の代表チーム枠を算出する。

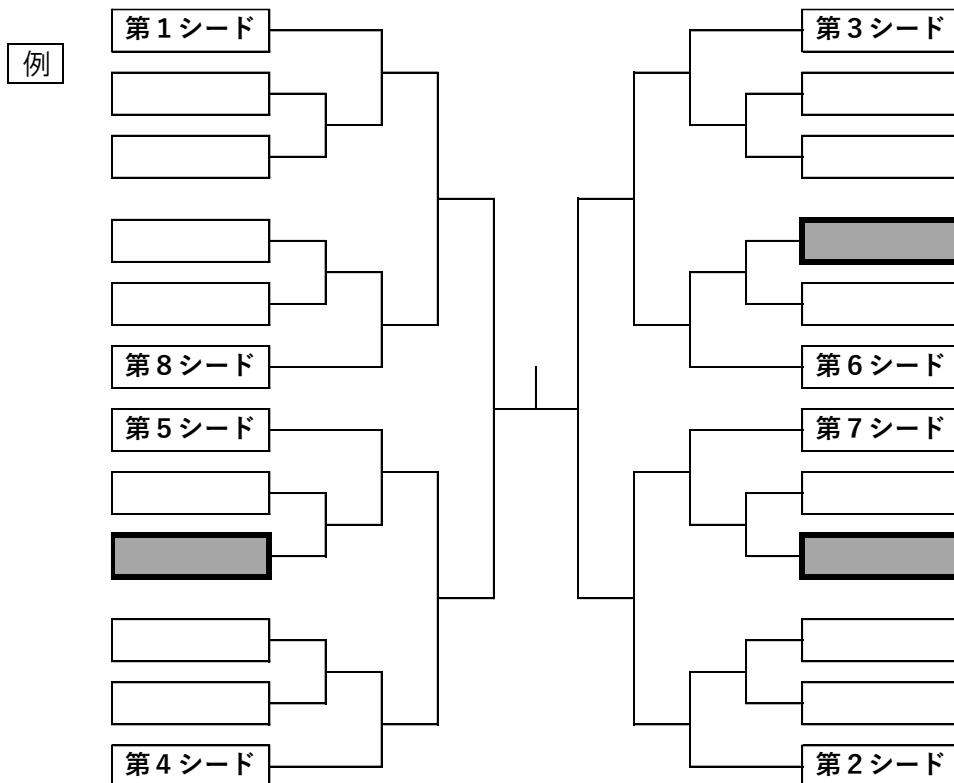
春季大会支部代表枠 男女とも16

男子：備前6 備中7 美作3
 女子：備前7 備中6 美作3

新人大会支部代表枠 男子24 女子28

男子：備前10 備中10 美作4
 女子：備前13 備中11 美作4

2. 春季大会または県総体で、前の大会（春季大会であれば新人県大会）のベスト4のチームがコロナウィルス感染症等やむを得ない理由で棄権した場合の、次の大会（県総体または選手権大会）の抽選については、第5シード～第7シードのブロックの一番内側に、抽選して入れることとする。（下図の太枠・網掛けの位置）



3. 2023年度から、合同チームのブロック大会・全国大会への出場が可能となるため、合同チームの編成について、次のように定める。

春季大会・新人大会・・・同支部同士での編成に限る（支部予選があるため）

県総体・選手権大会・・・同支部同士でなくても編成可能

※各チームの人数については、出場機会の確保の観点から、「25」に記載しているとおりとする。